

会 議 報 告 書	
会 議 名	平成 2 7 年度第 1 回草津市社会教育委員会議
日 時	平成 2 7 年 5 月 1 2 日 (火) 自 1 5 時 0 0 分 至 1 7 時 0 0 分
場 所	草津市役所 教育委員会室
出 席 者	委 員：四方委員長、北島副委員、飯田委員、湯浅委員、金本委員、 宮崎委員、石本委員、内田委員、鈴木委員、岸本(岳)委員 事 務 局：奥谷生涯学習課長、吉田副参事、山田主査 傍 聴 人：なし
会議関係書類	<input checked="" type="checkbox"/> 有 (別添のとおり) <input type="checkbox"/> 無
記録作成者	生涯学習課 氏名 吉田 万里 印 内線 (2 7 7 5)

1. 開会

2. 教育長挨拶

3. 教育部長、副部長挨拶

4. 議事

①報告事項

- ・平成 2 7 年度生涯学習推進事業について

【委員長】

それでは、本年度第 1 回の社会教育委員会議を開催させていただきたいと思いを。
まず 1 番目の報告事項です。平成 2 7 年度生涯学習推進事業について事務局からお願いたします。

【事務局】

資料に基づき説明

【委員長】

ありがとうございます。

ただいまの御説明について、何か御質問等ございますでしょうか。

(質問なし)

②協議事項

- ・活動事例集の作成について

【委員長】

引き続き協議事項に入らせていただきたいと思います。

本日の協議事項につきまして、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

協議事項説明

【委員長】

今年度の活動としては、これまでもよく知られているもの以外にも、この社会教育という枠内でいろんな活動があるのではないかと。そういう活動を少し掘り起こして、社会教育というところで、ここまで活動の広がりがあるというところを事例集という形でまとめていこうと。最終的には、成果発表会のようなものを開催するというところで、昨年のところ御意見をいただいたところでございます。

それから、報告書に載せるのは、もちろん学区にまたがって活動されている活動もあるかと思うのですが、13学区ありますので、目安ですけれども、それぞれから1つぐらい。

それから、先ほど申し上げましたけれども、広がりみたいなものですね。人なり活動なりが、ほかの人とか、活動とか、あるいはほかの地区とか、あるいはいろんな世代とかといった形で、広がり、つながりがあるようなものをできるだけ紹介できたらいいかなというようなことを昨年度から御議論いただいているかと思います。

それで、事務局でつくっていただきましたこのフォーマットにのっとなって、委員の皆さんから、事例報告書に載せるふさわしい活動というのを御推薦いただいております。それがお手元に集まってきています。

まずは、これらの活動から、どの活動をピックアップするのかということを決めていく必要がまずあるかと思いますが、まず御推薦いただいた方から、活動の事例について簡単に説明をいただけたらなというふうに考えております。

では、まずB委員からお願いいたします。

【B委員】

草津市子ども会6年生リーダー養成講座の事例を出させてもらっています。

活動学区といいますか、草津市域の6年生を中心としたリーダー養成講座で、13学区の中で参加希望者を募って募集をしています。基本的な参加の基準となるのが、各それぞれの学区で5年生のリーダー研修を修了した子どもたちが集まって、6年生の講座に挑むという形になっています。7講座やっています。活動の内容の中の部分で、遊びと自然体験を通じて子ども会のリーダーとして知識や技能を身につけるといふことで、ふだん家でおとなしくしているのか、なかなか外に出ないという子どもさんもおられるんですけれども、やっぱり地域の中でちょっと活発に何かやるかなとか、学校の中でリーダーシップをとったり、遊びの中でよくやんちゃだなというお子さん

もいろいろとおられるんですけれども、そういう子どもたちが地域に出てきて、野外活動を通じて13学区の横のつながりを持ちながら一緒にやろう。宿泊が7月と8月の3泊4日、奈良の曽爾高原の自然の家と、今年度の予定は1月23日から24日で、希望が丘文化公園で1泊2日の予定で計画をしているところです。

基本的に野外活動というのは、電気がなく、水がなく、不自由な生活をしながらみんなですら協力して寝泊まりができるのかということから、仲間づくりであったり、助け合いという部分も育みながら、役員の中でおられる方については、定年を過ぎた70歳近い役員さんから、地域のお父さん、お母さん世代までと一緒に野外に出て、山登りして、しんどい。大変やな、もうちょっとやな。頑張ろうという声かけをしながらコミュニケーションをとってやっています。

基本的に第4講座までがキャンプの関係の活動になるんですけど、第5講座、福祉体験で手話とか点字、車椅子で障害を持っておられる方の立場になって毎日の生活を見直そうということをやっています。

第6講座は、街頭での募金活動、募金というのはどういうふうに使われているのか。募金したお金は地域に戻ってきて、自分たちのためにまた使われているんですよという説明をしてもらいながら、どうしたら募金してもらえるのか。どこまで大きい声をかけて頑張っていったら、それを遠くから見ている人が財布からお金を出して入れてもらえるのかとか。小さい声ではだめよ。自分が募金するには100メートル、200メートル前から募金やっているなどわかるように声を出さないと、これはできないんだよ。人の前に出してお金を頂戴と言ってるわけではないから、なかなか誠意というのを声に出してあらわそうというような活動の中を含めてやっています。

1年間を通じて第7講座をこのスケジュールでやっているのですが、13学区の中の友達が一緒に協力し合って、自主性、強調性とか。お父さん、お母さんとかちょっとしっかりしたん違うかな。何とか一人でもいろんなことをやってるやんというような感じになるように、成長していく部分が大きく見えている大事な事業であります。ここには書いてないですけども、年々参加人数が減ってきて、その辺の部分については、これから7講座を5講座に減らしたら子どもが参加するのかとか。3泊4日を2泊3日にしたら来るのかとか、いろいろな検討課題はあるんですけれども、30年以上続いている事業なので、これからも今までやってくださった役員さんのよい部分を生かしながら、やっていかななくてはいけないなと思いつつ今年度も募集しています。

【委員長】

ありがとうございます。

ひとあたりざっと皆さん御報告いただいてから、御質問等を伺いたいと思います。

次にCさん。

【C委員】

後ろから2枚目、3枚目、4枚目が私のリストになります。

青少年育成市民会議の代表ではありますけども、主に青少年育成市民会議のほうは、愛の声かけパトロール、挨拶運動等しています。特に、リストはつくっておりません。私、もう一方で民生委員児童委員を拝命しておりますので、その活動について幾つか御紹介させていただきます。

後ろから4枚目なんですけど、民生委員児童委員の日とありまして、5月12日が民生委員児童委員の日と設定されています。1917年に岡山県で発足したのが始まりということで、パッと見ておわかりのとおり、再来年は100周年を迎えるという。毎年、5月12日に何か啓発しなさいよと。民生委員児童委員会知らないよねということが全体にありまして、そういった啓発活動を行っております。草津の場合ですと、児童福祉週間でもありますので、特に子どもに対して、我々子どもたちの見方だよ。いつでもいるんだよ。いつでも相談していいんだよということをアピールするための事業を毎年行っております。過去に、移動動物園とかミュージカル鑑賞を行ってきましたけども、今年は、草津小学校の体育館をお借りまして、「あなたもわたしもチャレンジャー」といういろんな体験を行いました。具体的には、自転車シュミレーターとかニュースポーツ、科学実験、サッカー教室を行いました。人数は大体90人程度来ていただきまして、ちょうどいい人数でした。余り少ないと寂しいですし、あれ以上だとちょっとまたあれかなと思ったんですが。とにかく自転車シュミレーターは、子どもは大好きなんですね。回転が悪いというのものもあるんですけども、すごく真剣にやってくれてました。これが一つ目です。

2つ目です。これは誰がするわけでもない。私個人的にやってるものでございまして、科学実験教室、呼ばれればどこでも行きますよと。ある小学校の校長先生が言われれば、はい行きますよということでお伺いさせていただきます。市内外問わずという、過去には大津の文化祭にも行ったことがございます。あと、野洲から結構オファーがありまして、4回ほど野洲の子ども会さんからオファーをいただいたこともございます。科学実験の出前授業を行うということで、対象となる子どもの年齢に応じた実験内容を行ってますが、大体50名以内であれば、費用としては3,000円か5,000円でいけますよということで身近な材料でということで行っています。この間、マグヌスカップというのを披露しましたけれども、きょうも一つ用意してまして、これは、一昨日の民生委員児童委員会の日でやったんですけど、こういった厚紙でブーメランをつくりました。こう飛ばすと戻ってきます。これが受けまして、材料費がかかってないんですね。これ、私の会社で厚紙の廃材がありまして、要は産業廃棄物ですけども、そのまま捨てればごみになるものを持ってきてこのようにつくっております。

ポイントにつきましては、なるべくこういった子どもたちの手を使って、つくることを、最近、ものづくりというのがなかなか、買ったらいやん、買ったらいいや

ないというのがありますけども、子どもたちの手を使ってつくることを主体にして考えております。自分たちがつくったもので、自分たちが遊べるというのは、すごく子どもたちにとってもプラスになるかなと思っております。これが2番目です。

3番目です。これも民生委員児童委員の取り組みで申しわけないんですが、絵本の広場というのがございまして、毎月第2・4木曜日の午前中に草津市民センターで行っております。主に未就園児と保護者を対象としまして、本の読み聞かせを行っております。夏は水遊び等を実施するなど、読み聞かせが終わった後で、自由に遊べる時間とか、子育て相談に応じてます。子どもたちもそうですけども、保護者同士の、お母さん同士のコミュニケーションを図って、若いお母さんの孤立化を未然に防ぐというのも一つの目的としています。何しろ子育てって楽しいんだよ。おもしろいんだよということを実感できるといいかなと思います。私からは以上であります。

【委員長】

ありがとうございます。

次はDさん。

【D委員】

これは、皆さんに該当することだと思うんです。認知症とかいうのは。私は専門的な先生に来ていただいて、講座を開いて、それから今5年目になります。5周年記念には、やっぱり同じ京大の先生に来ていただいて、いろんな話を聞いて、皆さん健康に関心があるのか多いですね、草津市。全部でしても105名とか、入り切らないので、一応、80名で切っても、私入れてあげてくれって言うんですよ、きちぎちでもいいから。やっぱり定員をずっとオーバーします。ということは、やっぱり皆さんすごく健康には関心があるんですね、一人ではできないことだし。アンチエイジングという言葉は皆さん御存じ、老化予防というので。脳のトレーニングとしては、二つの動作を同時にするのがいいんです。歌って歩いたり、歌って計算したり、いろんなものを使って、ひもとか、ゴムとか、お手玉を使ってその体操をしてるんです。きょうも午前中にしてきました。草津市の大路市民センターですから、笠縫からも来てるし、玉川からも矢倉からも来てもらってます。ボランティアとして、矢倉の市民センターの高齢者サロンに去年行ってきました。渋川も行きました。草津市民センターも行きました。だから、呼ばれたらいつでもボランティアとして、活動しています。

【委員長】

ありがとうございます。

次はFさんお願いします。

【F 委員】

二つ挙げさせていただいてたんですが、認知症予防サロン、先ほどのお話と同じことなんですけど、今日先ほどですけれども、南草津の市民交流プラザでの認知症カフェができるよということは今ちょうどやってらっしゃって、それが途中で抜けてこちらに向かわせていただいたんですけれども、まさに認知症の方が400万人いまして、私自身は予防の取り組み、認知症になってらっしゃる方は、やはり専門的な知識がないとの方々をとということが多分難しいだろうと思いますので、その前段階の予防としてのサロンということで、くもんの学習療法というやり方を学ばせていただいて、その教材を使った脳の健康教室での取り組みをさせていただいています。ちょうど今年の2月からなんですけれども、来年度からは恐らく草津市の社会福祉協議会が主体になって、くもんの学習療法というのを取り入れた認知症予防の活動をされていくと思うんです。それにあたりまして、この市役所でも、あと社会福祉協議会でも、講師の方を読んで来られて講演会というのをされています。その講演会を受けて、実際に活動をスタートさせたのが脳の健康教室なんですけれども、こういうのをやりたいねというのをフェイスブックなどで発信をさせていただいたんです。この取り組みがあるというのを私が知ったのは2006年とか、2007年とか、そのぐらいの時期だったんですけれども、まだそのときにやり始めるのはちょっと早かったようなところがありまして、だんだんと認知症ということに関して、それも予防ということに関しての皆さんの意識が高まってきたので、もうちょっと早くやっておけばよかったとおっしゃるような方の声も聞くようになりましたので、個人的にもやっていこうと思ってフェイスブックで挙げたところ、女性の30代、40代の方々がサポーターをさせていただきますとフェイスブックを通じて実際に活動してくださる方が集まり、またこの講座を聞かれた方が、私やりたいわということでサポーターとして取り組んでくださってるという、集まりがすごくいいなと思って実行させていただいています。具体的にどういうことをするかというと、書いてある文章を黙読するというのはよく皆さんされていると思うのですが、声を出して読むというのが、今行ってきたのはそれなんです。

耳から入ってくるのがいいよというのが一つと、簡単な計算、1桁ぐらいの計算なんです。足し算、引き算から始まってみたいなのをペーパーベースで。1から100まで書いてある駒を並べるみたいな活動を実際に始めて、それが市町村よりも早く取り上げさせていただいたよというところで書かせていただきました。

もうひとつは、対象者がまた全然違うんですけれども、みんなでわくわくマルシェを挙げさせていただいてるんですが、これも市役所近くのビルの一室で、月に1回定例で最終火曜日に10時から3時までやらせていただいています。これは、もともとは、男女共同参画センターというところの女性のチャレンジ支援講座を受講した仲間が集まって、自分たちがやっている手づくりのものを売り出されたり、あるいは資格をとられた行政書士の方が資格を生かしたお話をされたり、部屋の中ですので、子ど

もさんを背負った方が、自分がつくった手づくりのお菓子とかを販売されたりというようなことが、外だったら子どもさんがどこに行かれるかわからないんですけど、部屋の中ではだして走りまわったというような状態があったり、あるいは、そういうところに高齢の方で、日ごろひとり暮らしの方が来られてゆっくりとお茶を飲まれたり、子どもさんと一緒に遊ばれたり、そういう居場所づくりにもなりますし、30代、40代の方々が、子育てが終わって社会に改めて出ていく。自分が何かをやりたいというふうなことの集まる場所を今つくり始めて、これもまだスタートしたところで、皆さんにまだまだ知っていただけてない状態でございますので、ちょっとでも知っていただけたらいいかなと思ってこちらに書かせていただきました。以上です。

【委員長】

ありがとうございます。

そうしましたら、次、Gさんお願いします。

【G委員】

まず、草津にここへ隊で私がしている活動なんですけれども、ゆるキャラのタイガークサツ君、少し認知度が上がってきたでしょうか。洗濯機でガラガラと洗えるゆるキャラですので、子どもが飛びついたり汚れても大丈夫という、そういうゆるキャラを目指しています。老上学区を中心にさせていただいてるんですが、先ほどC委員からも御紹介ありましたとおり、草津学区の絵本の広場でありますとか、子育てサークルでありますとか、玉川学区のほうでも呼ばれていけばどこでも時間が許す限り参加させていただいております。1回、Dさんの町内会のほうにお邪魔させていただいたりとかしまして、緑の募金も御協力させていただいております。この間、Cさんと一緒にハンドベルもやったりとか、そういうこともできる大変便利なゆるキャラです。どこでも呼んでください。

もう一つの活動が土曜大工サロンというのを御紹介させていただきます。老上学区の一番の特徴というのは、幼稚園、小学校、中学校というところが一つの一本の道のところで、ゾーンのようにくっついてあるという形になってますので、幼稚園だった子どもがランドセルを背負い、最後は中学生になりという、長いスパンでお子さんの成長を一つの通りの中で見守ることができるという、すばらしい校区だと思っています。この全ての、どこの学校ということではなく、ゾーン全体の美観を土曜大工サロンの方が、トータルがきれいな町並みにしていきたいという思いでボランティア活動をされている、おじいちゃん主体のサロンですけれども、大変すばらしい活動をされているかと思って御紹介させていただきます。

最後、老上学区には大変ボランティア活動のグループがたくさんあるところで、学区独自のボランティア連絡協議会というものをつくっています。これは多分13学区の中でも一つだけではないかなと。今度、6月7日にボランティア祭りをさせていただきますので、小さなお祭りではあるんですけれども、地域の方々が大変仲よくボラ

ンティア活動を通じて、御自身の生きがいがづくりプラス地域の活性化に役立つ活動と
いうことでさせていただいておりますので、こちらは御報告させていただきます。あ
りがとうございます。

【委員長】

ありがとうございます。

Hさん、お願いします。

【H委員】

3点ほど紹介させていただいてるんですけども、まず1番目、以前の社会教育委員
会議の事例集、缶ボラ隊の活動ということで、私が住んでいる町内会、笠縫東学区グ
リーンハイツ北町町内会の取り組みなんですけども、町内の住民が持っている空き缶
や古紙などの資源を回収してお金にかえると。そのお金で自主防災隊が秋に防災フェ
スティバルを開催する。春には、自治会館の庭に桜の木が植わっていましてそこで桜
祭りをすると。そういう顔の見えるつながりづくりということをしていまして。特に、
防災フェスティバルはすごい注目を受けていまして、嘉田知事も見学にきたりして話
を聞いたりもしました。ボランティアで空き缶の日に月1回集めてるんですけども、
町内の人の協力者がだんだん増えてきていまして、お金もたくさん集まってくるよう
になりました。桜祭りや防災フェスティバル、いろいろ防災体験もするんですけども、
非常食の体験は身近にある食材を使って、川から採ったりイナゴを焼いて食べたり、
町内で子どもたちやら、僕らは一杯飲みながら楽しんでるんですけども、町内のつな
がりをつくって、それが今広がって、注目もされているんですけども、学区でも防
災フェスティバルを今年度取り組むようになりました。町内の資源を集め、だから、
ごみの減量にも協力しているわけで、当然、しかる助成金もいただけて、そのお金で
みんなで楽しんでつながりづくりをつくると。

それから、2番目が、私が蛍を追いかけていて、環境活動をしていることにかかる
ことなんですけども、蛍に親しむ集い、5月23日に開催するんですけども、昨年
度、笠縫学区まちづくり協議会で、地域協働合校で「東っこほたるウォーク」という
ことで、ほたる観察をしたんです。笠縫東学区には蛍がよく見られるところがあるん
です。僕は、車でほたる観察に行くのではなくて、地元で歩いて探してよというのが
活動で、地域の自然に愛着を持って。まち協が今年度「ほたるフェスタ」ということ
で、6月4日から6日まで、ほたる観察会、ほたるの折り紙づくりと蛍の勉強をして、
あと蛍観察に歩いて出ていってもらおうという取り組みをします。それに当たって、5
月16日に、あんどんを飾ります。ここにありますように、地域の自然に愛着を持っ
ていただき、誇りを持っていただくことにつながるし、一つの環境学習になるのでは
ないかなと思います。それと、蛍というのは、我々から上の世代にしたら思い出を持
っているんですね。うまく世代を越えた交流、つながりをつくる上でもいい。おもし
ろいのではないかなと考えています。

それと、5月23日、ほたるに親しむ集いをやる中で、渋川小学校が昨年度取り組んだ渋川ESDミュージアムということで、風景の記憶絵から、この地域の人と子どもたちと一緒に聞いて記憶絵をつくり、それを活用として小学校の中で昔の暮らしや、自然やら書きだすことを授業の中でしたわけですね。それで、地域としてのつながりができて、渋川小学校の周りというのは開発されて、自然が少なくなっている。だけど、生き物を探してみようということで、探して、生き物絵図をつくったんです。人間も生き物の一つですから、自分も生き物で探した生き物も一緒に絵に描いて、それを大きな生き物絵図ができています。それで、それをもとに地域のお年寄りから生き物の話を聞いて、それを紙芝居にまとめたということだったんですね。支援委員会をつくって、非常にすばらしい紙芝居で、内容もすばらしい。それと、地域に入って公演活動をたくさんしました。渋川小学校だけじゃなくて、それ以外にもいろいろ子どもたちが上演活動をしたという取り組みです。渋川では、「いいまち・しぶかわ・だいすき」の頭文字をつくったというようにESDと。そういうふうに言ってます。そういう発想もすばらしいですね。

【委員長】

ありがとうございます。
Aさん、お願いします。

【A委員】

勤務校がかわってしまいましたけども、前の常盤小学校で取り組まれていることです。まちづくり協議会がそれぞれ立ち上がって、今の取り組みをする中で、常盤の協議会では、協議会が立ち上がったということで、ふるさと常盤をみんなで見直していこうと取り組まれたのが、この常盤“音”今昔物語という取り組みです。これは、一部の方が曲をつくって終わりではなくて、できたらずっとみんなでかかわっていけたらということで、平成24年度、平成25年度の2年間でつくられました。16町あるのですが、各町ごとにワークショップ形式で常盤のいいところなり、自分の町の伝統みたいなところを話し合っ、それをまた持ち寄って、発表会をして、それを聞いて曲のイメージをつくるということをされました。なかなかこういうのは曲をつくったらそれで終わりということが多いんですけども、もちろん、ふれあいまつりで歌ったりとか、できたらそこでできた実行委員会の中では、学校のほうでも使ってほしいし、子どもが歌うことによってずっと続いていこうということなので、学校では、去年度から10分間運動のときには必ず流して、それで運動をしたりとか、下校のときに流すということをしています。2曲つくられていて、1曲は、京都の大学の先生に専門家をつくったということと、あとは、地域でまず若いという地域のことを民話を紙芝居してやっておられるサークルがあるんですけど、その中の方が地域の歌ということで2曲つくられて、それぞれの曲を先ほど言いました10分間運動で流してるといって、できたら子どもたちもふれあいまつりで、3年生が地域学習といいます

か、社会の勉強をするので、3年生がいつもふれあいまつりでは発表しています。合奏したりとか、歌を歌ったりということで。子どもたちは毎日聞いているので、ごく自然に歌っていて、できたらそれがずっと続くといいのかなというのが、地域の方の思いも酌みながら進めているところです。新聞等とか取り上げられたので、余りたくさんつけるのはどうかなと思ったので、紹介をさせていただきました。

【委員長】

ありがとうございます。

今日は来られていませんが、Jさんが三つほど事例を紹介されています。

あと、Eさんも御活動いただいていますね。

【E委員】

今日、資料を出さなかったですけども、意見というよりは、私は、21世紀文化芸術推進協議会から出席をさせてもらっているのですが、皆さんの話を聞いてると、皆さん何かボランティアに活躍しようと思って活動されておられて。私のところでは考えてみると、みんな自分の趣味を持った会の集まりではないかなと思います。踊りとか、歌とか、琴、三味線、楽器。でも、自分の趣味だけをしては楽しくもないので、ずっと前からですけど、ボランティアをしようということになって、若い人にはなかなか文化芸術の普及ができませんし、中には小学校とか、そういうところへ子ども、市のほうから推薦いただきました文化芸術が何かありましたね。そういうので踊りとか、大正琴とか、お琴とかを教えて、小さい人にも覚えてもらおうと。今やっているのは全部高齢者です。なかなか若い人は、小さい人に入ってもらっても中学ぐらいで皆やめていかれて、伝統芸術、そんなところまで及びませんが、日本の文化である踊りや歌、邦楽のほうですね。やはりちょっとでも皆さんに広げたいなど。一般の方も含めてですけども、していただいたらいいなと思います。

【委員長】

ありがとうございます。あと、今日は欠席ですがKさんの「カフェみいーみい」も含めて候補に入れさせてもらって、ここから少しどの事例を収録していくかという話になるかと思うんですけども、まずは御質問等いかがでしょう。

【C委員】

すごく特徴的ですよ。本当にことが大きい小さい。子育て世代対象か、高齢者対象か。

現役の小中高生の親を対象したというのは余りなかったですね。生涯学習という観点からすると、もちろん対象ですよ。むしろ、なかなか日が当たりにくいんだろうか。

【委員長】

今の小学生ぐらいの親御さんということですか。

【C委員】

例えば、玉っこクラブだったら、未収園児のお母さん、お父さんを対象にした取り組みだったりとか。あと、御高齢の方を対象にした取り組みというのは結構ありましたけども、私もそうなんですよ。

【G委員】

小学校だと、やっぱり地域協働合校になる。

たしか、教育委員をされていた方が図書室で活動をされたのが中学校だったように記憶しています。保健室のような役割をするような図書室みたいなことをされてました。まだされてると思いますけれども。

【委員長】

Bさんの活動、これは、直接、親御さんのかかわりはないんですか。

【B委員】

リーダー研修を受けた、草津市のジュニアリーダーでれもんというグループを使って、大人と参加者の6年生の間に入った位置での、子どもたち指導については、ジュニアリーダー、中学生、高校生、大学生。指導する立場の者は、あくまでも準備であつたりとか、安全確保であつたりとか、そういう部分でかかわって、実際の指導はジュニアリーダーに任せている。ジュニアリーダーというのも、このリーダー研修を受けた子が大体地域での子ども会のリーダーであつたりとか、部活の部長であつたりとか、生徒会の役員をやっているというのが多いです。

【委員長】

まず、世代が満遍なく拾えるような形で、そういう意味では事例を集める必要があるのかなと思いますよね。あと何か御意見ございますか。

【G委員】

カテゴリー的に、人権とか、自然環境とかいう。

【委員長】

まず世代の問題と、それから中身の問題で少し活動をカテゴリーわけにするということですよ。

【A委員】

整理するには、今言ってくださった領域だったりとか、文化・趣味とか、人権とか、高齢者対策であったり、社会教育なので、今の社会教育課題の解決のための活動だと思いますので、出てきた事例を領域で分けていくというか、一覧にできるといいんですかね。例えば、活動主体がどこだとか、あと学区も入れるんだったら学区も入れたりとか、今言ってくださった領域であったりとか、対象にしている年代であったりとかというようなのをA3とかでも大きく。そういうのにしていったほうが、一つ一つ見ていくと時間がかかりそうな気がしたのです。

【C委員】

漠然としてしまってるので、例えば、全て人権オンリーというわけではなくて、いろんなことがあるかもしれないし、例えば、国際教育にもつながるかもしれないし、いろいろカテゴリーがあればいいのかなという。

【委員長】

そうですね。これをちょっと順に眺めると、確かに立体的な絵が描きにくい。確かですよ。だから世代でしょ。それから活動内容の領域ですよ。それから学区ですよ。結構、学区関係なくやっておられるのと、割と学区固定のものというのに分かれると思いますよね。だから学区ですよ。何かそのあたりで少し一覧表にしてみないと、判断しにくいというのはあるんですかね。

今これ、集まったものだけでも割と数が多いですし、それから基本出していただいているのは、全て委員さんが実際かかわっておられる活動だと思いますので、ほかの委員が見に行くとか、話を聞きに行くといったルートとしても入りやすいですよ。

私としては、基本ここで集めたものだけでも、ここからさらに絞り込まないといけないので、さらにここから委員が直接かかわっていない活動まで広げてしまうと、今回、我々の手には負えないかなという気もしているので、基本はこの委員の中で直接何かの形でかかわってるという活動だけで絞ってもいいかなと思ってます。

スケジュール的に、次回選定するというのも大丈夫ですか。

【事務局】

そうですね。7月を予定という形で皆さんに次回の予定を配らせてもらってるんですけども、ジャンルであるとか、年代別のカテゴリーを決めていくという作業が進んでからのほうが一番動きやすいのは動きやすいんですけども、最終、グループ分けをしておいて、ある程度事務分担、進め方の分担をしていくほうが早いかなとは思ってますね。次回の会議までに、例えば、グループワークでここまで作業をしておいて次でちょうどとか、そういうふうな平行して活動していくという形が必要になるかと思います。

【委員長】

例えば、カテゴリーを決めて、そのカテゴリーごとに何かグループをつくるということにしておく。そのカテゴリーごとで、例えば、最終何個ずつぐらいかに絞るか。そういうやり方もあるかなと思いますよね。でも、このカテゴリーのところがちよっと難しいですけど、どんな分け方がありますかね。

【B委員】

一つの事例集で幾つものカテゴリーがあります。

【委員長】

ありますよね。思ったのはそうなんです。カテゴリーに分けても、結局、複数カテゴリーに割とまたがるものが多いですよ。それから、世代も広がりがあるということもありますけれども、もちろん、そのつながり、重なりみたいなものは大事にしようというのが、この間の議論の経過だと思いますのでね。ただ、作業の都合上、何領域かに分けて、そこで少し事例のピックアップ、あるいはそれぞれの事例をもうちょっと詳しく見るというような作業をしたらいいのかなと思うんですけど、そうすると。

【G委員】

立命館の学生の活動というものがやっぱり何か一つあると

【E委員】

今、セラバンドというのがありますけどね。その指導に玉川の。

筑波大学の教授が来てくれたりして、リーダーをつくってますし、玉川が100歳運動というのを推進いたしまして、人口も大きいのに100歳というのが一人しかいません、100歳以上が。それをふやそうということで体操を始めたんです、セラバンドというバンドを持って。自分も指導を受けてちゃんとしてるんですけどね。去年、二人になったと。これからどんどんと皆さん、常盤や笠縫のほうへ行くと、人口の割には100歳という人がいるけれども、玉川は学生の街で、どうしても若い人が多いのかな。リーダーに選ばれたので、私は、年をとってるからだめと言ったけれども、年をとっている人が元気で長生きするための活動ということで、リーダーとしてやっていますけどね。確かにいいことはいいと思います。

【委員長】

でも、人権は難しくないですか。だって、何でも人権って言えば人権でしょ。だから、難しいな。カテゴリー分けがやっぱり難しい。

【A委員】

事業を書いてしまって、学区を書いてしまうほうが、逆にね。

【C 浅委員】

学区、要りますか。あったほうがいいですか。

【B 委員】

学区は入ってるが対象となるものがなかったら、ここ何するんですかとなる。あるところだけ書いて。

【委員長】

学区って関係ないのもあれば、たまたまその学区というのもあれば、どこでしたっけ、その学区の幼稚園から中学校まで全部同じように続いているところがありましたよね。老上ですか。

その活動とかがあったら、やっぱり学区と活動とがすごく意味があるというか、あえて学区ということに意味がある活動なのかなと思いつつ、でも、たまたまその学区だということもあるのかなという、ほかのやつだとね。これで言うと、学区であることをセットで考えたほうが良い事例と、そうでない事例もあるのかなと思ったりします。そうですね。老上学区のスクールゾーンなんかはそうですよ。

【G 委員】

収録とは、最終的に1個ずつに絞り込むというか。

【委員長】

あくまで目安なんですけど、13学区あるので13個ぐらいということなんですけど、別にもうちょっと数を絞ってもいいかなと思いますけどね。

目安なので、別にどの学区も満遍にないといけないということではないと思います。それよりは、活動の中身でやっぱり広がりがあるという見せ方のほうがいいかなと思います。だから、学区は、たまたまその学区であるというぐらいでいいかなと。別に足りないところを無理に探しに行く必要はないのかなと。むしろ、我々の手持ちの事例の中で余り偏りがないように、基本、重なりが強いものについては、どちらか一つに譲ってもらおうという、そんな感じで考えていますけど。

そうそう、整理・統合して考えにくいようなものは、もうそれは一つポンと置いとくとかということですよ。ちょっと重なりがるものについては、どちらかを代表させ、落としたほうのやつも少し参照しながらという形で書いたらどうかなと思いますけどね。

《事務局で、黒板に事例・学区の表を書き出し》

《学区、対象者を一覧にし、事例を検討。最終13事例決定》

・成果発表会について

【委員長】

では、事例の絞り込みはこの図を完成を待ってやりまして、先に成果発表会です。こちらのお話を先に進めさせていただきます。この間の時間を利用してですね。開催時期なんかをおおよそ決めたいということなんですけど、話をさせてもらいましょうか。当然、年度の後のほうにはなるかと思うんですけども、現時点でいつぐらいと決めておいたほうが、事務局としても会場等を押させていただきやすいのかなと思いますので、大体、何月ぐらいにやるのか。あるいは、曜日とか時間帯ですね。そのあたりの御意見を伺いたいと思います。

【H委員】

一応、この計画書では、第6回の会議の発表の場にするつもりですよね。これでは2月になってるんですけどね。

【委員長】

大体、2月ぐらいですよ。2月で、やるとしたらやっぱり土日ですか。

【C委員】

やっぱり生涯学習という裾野を広げるためには、土日に来てくれる方を対象にしたほうがいいと思います。平日に開催してしまうと、限られてしまうのでね。

(会場調整し、3月19日(土曜日)市役所2階特大会議室で決定)

【委員長】

では、今日はここまで決めさせていただいたということで、事例紹介については推薦者にお任せということではなく、ほかの委員さんも実際に活動に参加する。あるいは、話を聞かせてもらうという機会を報告書をつくるまでにとっていただきたいと思いますので、その辺の検討を次回の検討として送ってもいいですか。では、本日はお忙しいところ、ありがとうございました。

5. 閉会
